

# 辰野町 議会だより



～災害復興へ  
思いを込めて～

第42号  
平成23年(2011年)  
8月1日



ほたる祭り開幕式にて

## 6月定例会

- 正副議長就任ごあいさつ……………P 2
- 総務産業常任委員会活動から……P 3
- 福祉教育常任委員会活動から……P 4
- 町民の声（議会を傍聴して）……P 5
- 議会研修視察報告……………P 6



みどりのカーテン(役場庁舎)



議長 矢ヶ崎 紀男

始めまして。この度の議会改選によって新しく議長に就任いたしました。もとより浅学非才ではありますが、互いに切磋琢磨し、町民の皆様の付託に応えるべく、全力を尽くしてまいる所存



副議長 宇治 徳庚

議会の使命は行政のチェックと監視にあります。住民代表である議員は、住民全体の利益のため法令に基づき、公正・公平にその権限を行使するという厳しい立場にあることは言うまでも有りません。

# 就任ごあいさつ

でございます。何卒皆様の御指導、御鞭撻をいただきますよう、よろしくお願い致します。

今年辰野町にとって一大事業であります辰野総合病院の新築工事が着工されました。町民の皆様の医療を守るために、病院新築の意義をしっかりと理解把握すると共に、議会の立場から経営状況を検証しつつ、経営改善と財政健全化のための提言を積極的に行って行

きたいと思えます。

安心して暮らせる地域医療の中核病院として、また利用者の意見を取り入れ、愛される病院として、育てていかなければいけないと思えます。

議会においては、議会改革を積極的に図り、より正確な情報発信を行ない、町民の皆様の意見を十分に反映できる、開かれ一層親しみやすい議会活動に努めてまいりたいと存じます。

それゆえに、執行機関すなわち行政との距離感はいえ、一歩離れて二歩離れずのスタンスが大切と考えます。この原則が守られないと、牽制機能は低下し、結果として行政はゆがめられ、民主的で公正な運営は損なわれると思えます。そこに地方議会と議員の存在意義があると私と考えます。

折りしも、議会の最高規範である「議会基本条例」が制定され、ステージはい

よいよ実践活動の場に移行されました。議会と議員はこの理念に基づき合意形成のために、十分な討論を行い、二元代表(町長と議会)としての議会運営と住民により身近な議会になれる様、議長を補佐し微力ではありますが頑張る所存です。



## 23年度議会が 取り組む課題

- 一、移転新築工事が始まった辰野総合病院の医師不足・赤字解消への取り組み、経営形態の見直しなど、対処のチェック。
  - 二、議会基本条例の本格的実践活動の推進と定着化。
- について早急な取り組みが課せられております。先進自治体および病院の視察を実施致しました。

(6ページに掲載)

## 辰野病院医局との 懇談会

6月21日、病院側からは院長・事務長ほか2名、議会側からは正副議長と各常任委員長の4名が出席し、辰野病院講堂にて懇談会が開催されました。

院長から開院以来の常勤医師数や診療料の推移及び経営状況などの説明を受け、続いて平成22年度の医業収益の状況は、対前年比



で入院は内科・外科・透析で1億1千万円の増に対し、整形外科は1億9百万円の減となったため増減ゼロ、また外来においても整形外科で3千2百万円の減収との説明がありました。従って医師の減員が収益に對して顕著に表れたことがわかりました。来年秋の新病院開院に向けて、常勤医師の確保がますます重要な課題となるでしょう。

## 委員会活動から

# 総務産業常任委員会

### ● 陳情審査



### ● 陳情審査

■ 福島第一原発の事故対策の強化、原子力政策の転換、自然エネルギーの研究開発・普及等に関する国あて意見書の採択を求める陳情

陳情代表者

上伊那地区労働組合会議

議長 平沢 敦士

委員会では原子力発電に関する研修として、中部電力諏訪営業所の担当者を講師に、原子力発電についての説明を受けました。

- 一、日本の電力状況
  - ①日本は水力発電が主流であったが、6割以上が火力発電に替わった。
  - ②オイルショック以降、天然ガス、原子力による発電への依存度が高くなり2009年度の電力供給量は原子力29%、石油8%、石炭25%、天然ガス(LNG)29%、水力8%ほかとなっている。
  - ③地球温暖化対策にはCO2排出の抑制が最も重要である。
- 二、原子力発電の現状
  - ①世界の原子力発電はアメリカの104基、フランスの

- 58基、日本の54基、ロシア・韓国・インドなど30ヶ国で稼働している。
- ②日本の原子力発電は13県17ヶ所に54基、4884万KWの発電量があり19基が運転中、14基が定期検査中であり、既に4基が廃炉となっている。

- 三、浜岡原発の運転停止について
  - ①浜岡原発運転停止要請を受け、4・5号機は停止し、定期検査中の3号機は運転再開を見送った。
  - ②運転停止要請の受入れについては、安全の確保を最優先に稼働しており、今回の要請は社会の不安の高まりを踏まえたものと捉え、不安に対し信頼を得る事が最優先と考えるの停止である。
  - ③原発の再稼働については、想定される最大級の地震を考慮し、更に余裕ある耐震安全性を確保している。津波に対しては更に大きな防波壁の設置、新たに高台への非常用発電機の設置等を完了し、国民の理解を得た上で、電力の安定供給の為



早期再開を目指したい。以上の参考説明でした。

審議においては、現在国内の供給電力量は3割を原子力に頼っており、原子力発電を即停止すれば、日本経済は破綻し、国民生活は立ち行かなく成りはしないか。又、2重3重の安全対策を施し徐々に縮減し、自然エネルギーで賄えるよう早期転換を図るべきでないか。更に原子力の廃棄物処理方法が確立していない現在、あまりにも危険であり停止・廃止すべきである。などの意見が出され、陳情の趣旨は一部理解出来るとしながらも、議論の末、委員全員一致で継続審査としました。

### 議員発議による

### 意見書

浜岡原子力発電所の廃炉を求める意見書の提出について

提出者 根橋 俊夫議員  
賛成者 永原 良子議員

### 意見書の趣旨

福島原子力発電所の1号機の事故が津波ではなく、地震により損傷があったことが明らかとなり、東海地震震源域の中心にある中部電力浜岡原子力発電所の安全性に対して町民は大きな不安をいだいている。もし、浜岡原子力発電所において福島原子力発電所と同様の事故が発生した場合、伊那谷住民の命の安全が脅かされ、生活は破たんするおそれがある。一刻も早く廃炉の決断をするよう国に求める。

採決の結果  
賛成3名、反対10名で否決されました。



## 委員会活動から

# 福祉教育常任委員会

- 条例審査
- 請願審査
- 意見書提出



### ● 条例審査

■辰野町宮木中央介護予防センターの設置及び管理に関する条例の制定について

5月10日竣工の宮木中央介護予防センターの設置と管理に関する条例を制定したいとするものです。  
 ☆従来からの介護予防センターに関する町と各区との話し合いが必要、名前の通りもつと利用して欲しい、特に男性の利用者が増えたい。☆町でも予算を取って活動しやすく、より多くの人が利用出来る様に考えていくとの提案があり、委員全員一致にて可としました。



### ■ 辰野町保育園条例の一部を改正する条例について

新町保育園移転に伴う住所の変更及び、定員を羽北15人・平出10人・小野35人の減員をし、新町保育園を60人増員とする変更をしたこととするものです。

町全体では、保育職員数を考えて定員は動かさず、中央保育園・東部保育園など定員超過の園児については、新町保育園などへの移動や、将来は平出保育園または、他の園の新築移転で未満児保育の充実を図るなどとして、対処していくとのことでした。

今後とも全体の流れを見て定員を適正配置していくとの説明があり、委員全員一致にて可としました。

### ■ 町立辰野総合病院設置等に関する条例の一部を改正する条例について

同病院が平成23年3月31日特定障害福祉サービス事業者の指定を受けたことに伴い条例の一部を改正するものです。

家族が介護を出来ない時に短期間の入所で、一泊2万4千円プラス食事代一

食630円で重度の障害者の受け入れが出来る事業です。委員より、非常に大事なことで、ベットの有効利用でき高齢化が進む家族の中で、安心して短期入所が出来る、預かってくれるというシステムが確立されることは、画期的なこと。病院の柱とまでは行かないが、支援していく事により、こんな事業もあるのだというイメージアップにもつながっていく。

保健福祉課とタイアップして大きく事業を展開していくよう望む。

委員全員一致にて可としました。

### ● 請願審査

■ 少人数学級の早期実現や複数学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める意見書提出に関する請願

■ 「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める請願

■ 長野県独自の30人規模学級の中学校全学年への早期拡大と複式学級の解消、県独自に教職員配置増を求める意見書提出に関する請願

### 請願提出者

辰野町公立学校教職員組合  
 執行委員長 前原 修  
 紹介議員 中谷 道文

請願三件について関係者より説明を受けた後、委員会として慎重審査の上、委員全員一致し採択としました。

### ○ 意見書 (集約記載)

■ 国の責任で早期に少人数学級の実現と新教職員定数改善計画を実施し、学校現場に必要な人員人材を確保すること又現行の複式学級の編制基準を改善すること。

■ 義務教育費国庫負担率を2分の1に還元し、除外した教材費、旅費、共済費、退職手当など還元すること。

■ 県独自の「30人規模学級」を中学校全学年へ早期拡大と現行の複式学級の編制基準の改善と合わせて、県独自の教職員配置の大幅増。

以上を内容とした意見書が可決され、県及び国関係部署宛提出されました。

# 町民の声

## 6月定例会を傍聴して

倉澤有里子

女性団体連絡協議会は、毎年六月の定例会を傍聴しています。

選挙後初の議会で新人の議員の質問もあり傍聴席は満員で関心の高さに驚きました。辰野町議会は、昨年開設五十五年を迎え、今年「議会基本条例」が制定され新しい一歩の議会であり、条例によると、陳情等が町民による政策提案と位置づけられ又町長等は質問に反問することができるところになったので、その点に注目しながら傍聴させていただきました。

質問に立った議員の中で防災対策の質問がいくつかだされましたが、重複している件が見受けられたので事前に調整できればもっと多岐にわたる質問の時間が取れるかと思いました。防災対策は喫緊の課題ですから、町長の答弁は「努力する・したい」だけでなく即答は難しいとは思いま



すが、具体的用途を示した答弁をしていただければと思います。

国道整備バイパス化の質問が出ましたが町の安全、経済発展の為に重要な課題です。特に関心をもつて聴かせていただきましたが、町長の予算獲得を進めたいとの答弁に心強く思い、地域住民としても意見交換をして協力をしてゆかねばと思います。新病院関係では、質問に対し町長から反問があり、即座に議員が提案すると町長から歯切れの良い答弁があり、まさしく条例が生かされていて、すばらしいと感じました。これからも議員の皆様

は、町民の代表として民意をくみ取り、最も大きな使命の議員提案をたくさん出して、大いに議論し私達の町をより良い町に導いていただきたいと思います。



桑澤 利金

私は、この町の生まれですが、仕事の都合で定年退職後から町内に落ち着いた関係で、町議会を傍聴する機会に恵まれませんでしたが、その後、町内会、区の役を経験させていただく中で町議会を傍聴しなくてはならない、その機会が取れずに現在に至りました。そんな中、この度町議選が行われ議員の顔も一新されました。ほたるチャンネル、有線放送などメディアを通しての議会の様子は知りつつも、実際の運営はどうだろうか。一度は、実際に議会を見ておこうと区長同期

の方をお誘いし、議会傍聴となりました。せっかく傍聴するならば二日間全員の一般質問を聞かせて頂きました。

昭和三十年に辰野町、朝日村が合併し二十六名の議員でスタート、昨年は町議会開設五十五年を迎えられたとのこと、大きな重みを感じました。メディア経由でなく、議員と町理事者との一問一答の対面形式を通しての議会状況を、二日間勉強させて頂き、大変参考になりました。有難うございました。

松田 泰典

先日、大勢の仲間(男の和)と共に、町議会を傍聴しました。

議場は、地域の活性化、高齢者福祉の問題につき議論が交わされていて、いずれも、難題にも関わらず、真摯に受け答えがなされています。

町議会議員選挙が行われた直後のゆえか、其処此処に新鮮さが漂っていた。議会を構成する多くの人々を目の当たりにして、



一体経費はいくらかかっているのか、費用に対する成果はどうか?などと、つい下世話に考えてしまいました。今、日本は東日本の大震災、企業の海外流出などによる大不況が予測され、諸問題の他、東海地震の備えもせねばならず、大変な事が連続しています。当町は、小さいながら、先頃の合併にも加担せず自立の道を歩んでおります。「山椒は小粒でもピリリと辛い」などと言われたら嬉しいですね。関係者の皆様に「辰野町を頼むよ!」と思つたものでした。

# 議会研修視察報告

視察目的と視察場所

★情報公開に伴う

議会報告会について

○静岡県牧之原市議会

○静岡県島田市議会

★経営形態見直しについて

○榛原総合病院

○市立島田市民病院

以上議会改革及び自治体病院の経営形態見直しなど、先進地を7月5・6日の2日間研修してきました。



牧之原市議会

## 牧之原市議会

牧之原市は人口50,710人 議員数17人  
21年10月議会報告会の開

催や議員の質問に対する市長等の「反問権」を明記した議会基本条例を制定。

議会報告会の現況について

の説明では、まだ年1回

だけの実施ではあるが、市民との情報交換が出来て、

さらにその距離が縮まった。とのことでした。

榛原総合病院

指定管理者制度に移行

し、公設民営化による経営

設置者 組合

(牧之原市・吉田町)

管理者 牧之原市長

指定管理者

特定医療法人沖繩徳洲会

診療科目23科・病床数408

床・常勤医師数30.6名

移行までの経過と現況の

説明を受けました。

外来・入院患者の減少と

医師引揚げによる医療収入

の大幅ダウンにより累積赤字

が膨れたため、市民説明

会を開催し、我々が出来る

事は何かを検討した結果、

指定管理方式を採用した。

指定管理方式を採用した。

## 質疑

問 指定管理者公募への参加者数は。

答 ゼロであった。

問 どのようにして徳洲会

に指定出来たか。

答 市長自らが訪問し依

頼、しかし即答はもらえ

なかったが市長の強い熱

意の結果と考えている。



榛原総合病院

## 島田市議会

島田市は人口102,788人 議員数23名  
21年4月議会基本条例制

定。

条例制定に至るまでの経

緯（平成19年3月制定に関

する特別委員会の設置）か

ら制定後の取組として議会

報告会などを主体とした説

明を受けました。

## 市立島田市民病院

平成23年4月

公営企業法全部適用に移行

島田市民病院を含む4公

立病院が受け持つ二次医療

圏（人口約47万人）の現状

と当病院規模（診療科目29

科、病床数536床、常勤医93

名）及び事業管理者につい

ての説明を受けました。

視察事項として

一、経営健全化に向けたこ

れまでの取り組みとその

成果。

二、公営企業法全部適用に

至った経過及び課題。

三、事業管理者の職務権限

の範囲。

四、島田市の取り組み、支

援助向（中でも市民によ

る島田市地域医療を支援

する会）について主に説

明を受けました。

質疑

問 病院収益が年々増加し

ている主要因は何か

答 院長自ら病院の現状と

課題について市民に対し

何回にも亘る説明会を開

催し病院と市民が一体と

なった「地域の医療は地

域で守る」といった取組

の成果と考えている。

## 編集後記

議会改選により、新人2人を  
を含め、新たな広報委員会が  
スタート致しました。

この「議会だより」は定例  
会・委員会審査の内容、更  
に日常の議会活動など、町民  
と議会の相互信頼を高めるた  
め、議会が独自に積極的に情  
報を発信する手段の一つとし  
て発行しております。

今回は初定例会に百人を超  
える多くの方に、傍聴にお越  
し頂きましたので、町民の皆  
様の議会に対する声・意見を  
掲載致しました。

今後も皆様の議会に対する  
関心、チエックの声を大切に  
し、編集してまいります。

議会広報委員会

委員長 宮下 敏夫

副委員長 永原 良子

委員 三堀 善業

中谷 道文

堀内 武男

熊谷 久司

